

早稲田大学 国際教養学部 世界史 講評

〔総合分析〕

| | |
|--------|--|
| 出題形式 | マーク式 |
| 試験時間 | 60分 |
| 特徴・その他 | 近現代史から集中的に出題された。難問はとくに最近の国際問題に関するものが目立つ。 |

〔大問別講評〕

| 番号 | 出題内容 | コメント | 難易度 |
|-----|-----------------|--|-------------|
| I | 17～18世紀の北・中米 | 17世紀北米の先住民（問1）と植民地での奴隷制度（問3）は難問。既存の知識での対処は不可能に近く、歴史を学んできた者としての常識的判断力が頼りとなる。 標準的レベルの大西洋奴隷貿易についての問5で確実に得点したい。 | 一部難 他は標準 |
| II | アフリカ近現代史 | 正誤の決め手になる部分に非常に細かい項目が目立つ。 問9のエンクルマが失脚した際の外遊先（イギリス→ヴェトナム）など、自信を持ってこたえるには相当の知識量が求められる。問7のイの「19世紀末」はコンゴ自由国成立が1885年なので「末」といいきれぬか疑問が残る。 | やや難 |
| III | 人の移動からみた現代史の諸問題 | 問題文に「正しいもの」選択と「誤っているもの」選択が混在しており煩わしさを感じさせる。 問5の日本のODAは近年は1位ではない（2003年次で米国に次いで2位）が、教科書・用語集などは1位となっていて難しい。総じて1990年代の事項が目立つ。また問8のウの国際刑事裁判所は未設置で誤りだが、次のエの「女子に対するあらゆる差別の撤廃に関する条約」は2005年1月時点で署名国98で「国連の全加盟国が条約に署名」も誤り。いずれにしても世界史の学習の及ぶ範囲ではない。ただ、女子の問題はイスラム諸国についての常識から判断は可能。 | 難 |
| IV | 西洋近代思想の流れ | オーソドックスな文化史。確実に得点したい。 | 易 |

〔総合コメント〕

| |
|--|
| <p>昨年にくらべ難化。</p> <p>今年度の特徴である最近の国際問題についての設問は一般的な高校世界史を完全に逸脱。このへんで確実に得点するには政経の資料集を熟読する必要がある。果たしてそこまでやるべきか、一考を要する。現代史中心の出題は本学部の傾向として定着しつつある感がある。さらに外交・国際関係・民族紛争などのテーマをしっかりと学習しておきたい。</p> |
|--|